同時開催企画1
びわこアメニティー
バリアフリー
映画祭2011

会期：2011年2月4日（金）～6日（日）
会場：大津プリンスホテル本館2F「比良」
主催：全国地域生活支援ネットワーク
入替制・定員180名 / フォーラム参加者は無料
映画祭のみのご来場は入場料（1プログラム）・1,500円

今年はお酒をのみながら・・・

シアタートーク　　2月5日(土)　21:30～23:30

バリアフリー映画を斬る!

～バリアフリー映画は、本当に社会の役にたつのか？～

古川 康(佐賀県知事) 藤井康弘(前厚生労働省障害保健福祉部企画課長)
山上徹二郎 ((株)シグロ・びわこアメニティー映画祭プロデューサー)
*飛びこみゲストあり!!

上映作品　※上映スケジュールに関しては別途ご案内いたします。

春との旅

原作・脚本・監督：小林政広
出演：仲代達矢、徳永えり、大滝秀治、菅井きん、小林 薫、田中裕子、淡島千景、柄本 明、美保 純、戸田菜穂、香川照之 ほか
製作：『春との旅』フィルムパートナーズ　制作：ラテルナ、モンキータウンプロダクション/2010年/2時間14分

旅の始まりは、かつてニシン漁に沸き、今ではその面影すら留めない北海道・増毛の寂れた海辺。老漁師・忠男と孫娘・春は、つましい生活を続けていたが、時の流れとともに二人の暮らしは行き詰まることになる。春は、地元の小学校の給食係をしていたが、廃校となって休職。東京に働きに出ようと考えるが、足の不自由な忠男を見捨てることはできない。ふと春の口を突いて出た一言がきっかけとなり、二人は、老いた忠男の受け入れ先を求めて、長年疎遠になっていた親類縁者を訪ねる旅に出る姿を描いたヒューマンドラマ。

酔いがさめたら、うちに帰ろう。

監督・脚本：東 陽一　原作：鴨志田 穣（「酔いがさめたら、うちに 帰ろう。」スターツ出版刊より）
出演：浅野忠信、永作博美ほか　製作：シグロ、バップ、ピターズ・エンド/2010年/1時間58分
助成：文化芸術振興費補助金、日本財団助成事業　第23回東京国際映画祭日本映画・ある視点オープニング作品

戦場カメラマンとして世界の紛争地域を駆け回ってきた鴨志田穣氏による自伝的小説『酔いがさめたら、うちに帰ろう。』の映画化であり、アルコール依存症になったひとりの男と、それを支え続けた家族たちの日々を丁寧に描いたヒューマン・ストーリー。
主人公の男性が、肉体的にもそして精神的にも“酔い”からさめた時に、帰るべき本当の“うち”としての、家族という心の居場所を見つけるまでを、まっすぐな眼差しで描く感動作。

牛の鈴音

監督：イ・チュンニョル　韓国映画/スタジオ・ヌリンボ/2008年/1時間18分
第13回プサン国際映画祭・最優秀ドキュメンタリー賞、第34回ソウル・インディペンデント映画祭・観客賞、
第16回カナダ・ホットドックス国際ドキュメンタリー映画祭・アーティスト賞ほか受賞

79歳になる農夫のチェ爺さんには、30年間もともに働いてきた牛がいる。
普通は15年しか生きない牛が40年も生きた。
それは、お爺さんとの絆がなしえた奇跡なのだろうか。
お爺さんとお婆さんが同じ日常を繰り返し、60年以上も連れ添っていることも、現代から見れば奇跡かもしれない。彼らの命の営みは、切なさを超えた深い感動を観客にもたらすだろう。

しがらきから吹いてくる風

監督：西山正啓　シグロ/1990年/1時間31分
優秀映画鑑賞会、厚生省中央児童福祉審議会、(社)全国社会福祉協議会、(社)全日本国精神薄弱者育成会、(財)日本精神薄弱者愛護協会推薦

信楽は狸の焼物で知られる窯業の里。この町を支えるのは、「知恵おくれ」と呼ばれる人びと。
彼らは106人、町の全就労者の5%を占めるといわれ、多くは小さな家内製陶所で働く。
そんな彼らのほとんどが住む「信楽青年寮」にスタッフが7ヵ月住み込んで、この映画は作られた。
彼らが働く世界を決して“能力”や“能率”という視点で視ることはせず、人が人とかかわり一緒に生きている世界を記録した作品である。（1990年の、製作当時の表現のままとしています。）

ニセ札

監督：木村祐一　原案：小笠原和彦、山上徹二郎　脚本：向井康介、井土紀州、木村祐一
出演：倍賞美津子、青木崇高、板倉俊之、木村祐一、西方 凌、三浦誠己、宇梶剛士、村上 淳、段田安則 ほか　『ニセ札』製作委員会/2009年/1時間34分
第33回モントリオール世界映画祭、第1回沖縄国際映画祭 正式招待作品

軍国主義から民主主義へと価値観が一変した昭和20年代。紙漉き産業が盛んな山あいの小さな村で、小学校教頭として人々から慕われているかげ子は、かつての教え子から新千円札のニセ札作りを持ちかけられる。かげ子や、村の名士で元軍人の戸浦がグルとなり、かくして、村ぐるみの一大ニセ札作りが始まった――。
芸人、構成作家、料理人、俳優など、様々な分野で唯一無二の才能を放ってきた木村祐一の長編初監督作品。一見硬派なテーマを笑いと涙とサスペンスの効いた極上のエンタテイメントに仕立て上げた。

同時開催企画2
アール・ブリュット・ジャポネ
凱旋展 パリに行った作家たち

会期：2011年2月1日（火）～6日（日）　会場：大津プリンスホテル コンベンションホール淡海9、10
入場料：展覧会のみ 500円　　出展作品数：約300点

ギャラリートーク（1日通し/展覧会込み）
4日（金）1,500円 / 5日（土）2,000円 ※同時通訳機器貸出料は別途 1,500円
6日（日）1,500円　＊3日間共通 5,000円（同時通訳機器貸出料込み）

※フォーラム参加者はいずれも無料。
　但し同時通訳機器貸出ご希望の方は別途料金を頂戴します。
※各日定員300名　事前予約は受け付けません。席が満席となった時点で、
　入場いただけませんのでご了承ください。

展覧会に関する問い合わせ先
滋賀県社会福祉事業団企画事業部（田端/齋藤）　0748-31-2481

「アール・ブリュットの謙虚さに感動させられる。アートというものがようやく私たちに近づいてきた」―これはアール・ブリュット・ジャポネ展の会場にある、来館者ノートに寄せられたたくさんのメッセージの中の一つ。

日本のアール・ブリュット作品が、パリで評判を呼んだという。その作品群が日本に戻ってくる。その、帰国して間もない作品の一部を展示する、いわば凱旋展を企画する。

併せてシンポジウムも開催する。パリでの展覧会を開催したアル・サン・ピエール美術館の館長やアール・ブリュットの研究家などを招いて、実情を伝えてもらうほか、日本の有識者・実践者とともに今回の展覧会を総括する。

華々しく見えるパリでの展覧会も、その礎は日本での出来事である。こんな今だから、今の日本の美術館はどう考えているのだろうということ、作品の発信方法、そして改めて“アートって何だろう”ということも考える。

パリでの展覧会を機に興味を持った人、ずっと関心があった人、どちらにもおすすめのプログラムをお楽しみ（お悩み）あれ。

2010年「アウトサイダーアート展 ～パリ展に行く作家達～」より

ギャラリートーク　プログラム

企画・運営　嘉納礼奈・保坂健二朗・田端一恵・齋藤誠一・藤本えりか

2月4日(金)

13:00～13:40　**パリでの展覧会について**
齋藤誠一（滋賀県社会福祉事業団 アール・ブリュット・ジャポネ展日本側事務局）

14:00～15:00　**展覧会の多様性について考えてみる**
岡部太郎（たんぽぽの家：奈良県）早川弘志（やまなみ工房：滋賀県）
武捨和貴（風の工房：長野県）家成俊勝（dot architects）水野大二郎（デザイン研究者）

15:30～17:00　**近年、美術館で起きている出来事について**
小勝禮子（栃木県立美術館学芸課長）　松岡剛【予定】（広島市現代美術館学芸員）
八巻香澄（東京都庭園美術館学芸員）
コーディネーター：はたよしこ（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA アートディレクター）

18:00～19:30　**わたしたちがみたパリ ～支援者に見えた風景は～**
犬島佐智子（武庫川すずかけ作業所：兵庫県）　梅田耕（工房集：埼玉県）
村井資（るんびにい美術館：岩手県）　コーディネーター：アサダワタル（音楽家・プロジェクト作家）

2月5日(土)　シンポジウム「アール・ブリュットの現在」

9:30～10:10　報告1「アール・ブリュット・ジャポネ」展　**来館者とメディアの反応**
嘉納礼奈（パリ第4大学博士課程）　白石淳子（パリ第8大学修士課程）

10:30～11:10　報告2「アール・ブリュット・ジャポネ」展　**主催者として**　＊日仏同時通訳
マルティーヌ・リュザルディ（パリ市立アル・サン・ピエール美術館館長）

12:30～14:00　セッション1 **アール・ブリュットと地域と美術館**　＊日仏同時通訳
ソフィ・レヴィ（リール・メトロポール美術館館長）塩田純一（青森県立美術館美術統括監）
コーディネーター：保坂健二朗（東京国立近代美術館研究員）

14:15～15:45　セッション2 **アール・ブリュットの魅力を伝えよう**
阿部守一【調整中】（長野県知事）泉田裕彦【調整中】（新潟県知事）井戸敏三【調整中】（兵庫県知事）
達増拓也【調整中】（岩手県知事）古川康（佐賀県知事）コーディネーター：嘉田由紀子（滋賀県知事）
作品紹介：はたよしこ（ボーダレス・アートミュージアムNO-MAアートディレクター）

16:15～17:45　セッション3 **アール・ブリュット研究の最先端**　＊日仏同時通訳
セリーヌ・デュラボー（美術史家）中沢新一（人類学者、多摩美術大学芸術人類学研究所所長）
斎藤環（精神科医）　コーディネーター：保坂健二朗（東京国立近代美術館研究員）

18:00～19:00　**総括 ～美術館はアール・ブリュットとどう向きあうのか～**　＊日仏同時通訳
ジェルマン・ヴィアット
（ケ・ブランリー美術館前館長、現同館文化遺産コレクション局長、フランス国立近代美術館元館長）

2月6日(日)

10:30～11:10　**あらためて、アートについて考えてみる**
加藤種男（アサヒビール文化芸術財団事務局長）

11:15～11:45　**パリに行った作品の散逸を防ぐために・・・**
笹川陽平（日本財団会長）

12:00～13:15　**現代アートとアール・ブリュットについて**
秋元雄史（金沢21世紀美術館 館長）　日比野克彦（アーティスト/東京藝術大学 教授）
コーディネーター：はたよしこ（ボーダレス・アートミュージアムNO-MAアートディレクター）

＊プログラムの変更や講師の入替えなどもあります。その際はどうぞご了承ください。